

## 1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤に据え自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会で活躍できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「文武両道」と「組織で勝つ」をスローガンとし、人権尊重と生命尊重を柱とした教育実践により、自らの生活を豊かにする活力ある生徒を育成する学校
○児童・生徒像	「磨く」、「挑む」、「思いやる」の生徒行動指針の下、自分のよさや特性を理解し、新たに定めた目標を実現しようと努力する、自他の違いを認めそれを尊重する心をもった生徒
○教師像	仕事への責任感と使命感あふれる気持ちをもち、組織を大切にし、組織で職務に当たり、一人一人の生徒に寄り添い、「やさしく、厳しく」指導できる教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 1 学校の現状

生活指導の徹底が基盤となり、けじめと明るさが両立した学校生活である。生徒行動指針「磨く」「挑む」「思いやる」が生徒・保護者・地域社会に浸透し、学習活動や学校行事に熱心に取り組む姿勢が見られる。

#### (1) 生徒について

目的意識をもち、明朗快活な生徒が多い。しかし、一部に人間関係づくりができないなど学校生活に馴染むことができずに不登校となる生徒や問題行動等で教育相談を受ける生徒もいる。

#### (2) 教職員について

公務員としての職務を理解し、強い使命感をもって、熱心に生徒指導や部活動指導に当たる教職員が多くいる。しかし、ここ数年で若手教員が増加し、年齢のアンバランスがある。

#### (3) 保護者・地域社会について

多くの保護者は、本校の教育活動を理解し連携した指導を行っている。しかし、一部に教育力の低い家庭があり、生徒の基本的な生活習慣が確立されていないなどの課題もみられる。

地域は、開かれた学校づくり協議会が中心となり、教育の向上を図っている。特に、PTAはもとより足立九中後援会や「おやじ・おふくろの会」は、教育活動推進で物心両面の支えとなっている。

## 2 成果と課題

### (1) 成果

学習面については、自主的に学習する態度を養う取組や朝学習の充実、E S L等の取組により低学力層の改善傾向が見られた。豊かな心の育成については、挨拶や礼儀・マナーの推進、学校行事等における生徒の主体的な運営、ボランティア活動や部活動の推進等により、生徒の自己肯定感が高まった。

体力や活力については、生活・運動習慣の指導、元オリンピックやプロスポーツ選手との交流、食育の充実等を通して、79.7%の生徒が体力の高まりを感じ、85.1%の生徒がスポーツに関心をもった。

また、小中連携教育では、各教科における部会を中心とする授業改善と、系統的な規範意識を高める指導の取組について合同研究を行うとともに、今後求められる教育について大学教授から学ぶことを通して教員の指導力の向上が図れた。

### (2) 課題

ア 学力調査の分析と授業改善、個に応じた指導の充実、O J Tの充実による教員の授業力向上、学習コンテストの実施と振り返り、家庭との連携強化などで主体的に学ぶ態度の育成を行っていく。

イ 行事等における自主的な運営の充実、社会貢献活動の推進、スマートフォン等の使用の自己抑制など、思いやりの心や自律の態度を養い、生徒の自尊感情や自己肯定感を一層高めていくことが課題である。

ウ 東京都教育委員会スーパーアクティブスクールの研究成果を生かし、活力ある生徒の育成や体力向上に関する取組を一層推進するとともに、足立区や東京都全体に普及・啓発することが課題である。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力向上：自ら主体的に学ぶ力の育成と基礎的基本的な学習内容の定着を図る。 (学力向上アクションプラン参照)	○	○	○	○	○
2	健全育成：思いやりを中心に豊かな心を養う。	○	○	○	○	○
3	体力向上：自らの生活を豊かにする活力ある生徒を育成する	○	○	○	○	○

## 5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上：学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
自ら主体的に学ぶ力の育成と基礎的 基本的な学習内容の定着		通過率 65% (本年度 60%) を目指し、 学習に努力した生徒 85%以上 家庭学習 1 時間以上 65%以上		通過率 64.0% 学習に努力した生徒 84.6% 家庭学習 1 時間以上 58.2%		通過率は、昨年度の 55.6%から 8.4 ポイン ト向上した。 前年度同様、学習習慣の確立が課題である。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・ 継	アクション プラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 改善	基礎学力の 定着 (知識・ 技能の習得)	国語、社会、 数学、理科、 英語	1 毎日  2 月 1 回 程度	1 朝学習 8 時 15 分からの朝学習を充実さ せる。(コンテストと連動させる。) 2 授業改善と学習コンテスト 計算や漢字をはじめ各教科の基 礎知識等を行い学力の定着を図る。	1 朝学習 自己評価 学習点検 2 学習コン テスト 学力調査	通過率 65% (最終) (本年度 60%)  学習コンテスト等 の実施 3 回 基礎学力達成率 80%	平均通過率 64.0% (昨年度 55.6%) 基礎学力定着の指導 78.3% 基礎学力定着率約 85%	・通過率は、8.4 ポイント向 上した。基礎学力を意識し たきめ細かな指導の成果と 考える。 ・主体的に学ぶ態度と家庭 学習の確立が課題である。	◎
2 改善	授業改善の 充実	全教科	1 年 4 回  2 年 3 回  3 毎日	1 校内研修 校内研修、教員間の O J T 及びミ ニ研修等 2 研究授業 教科に基づいた 4 部会で実施 3 情報交流 職員室内のコミュニケーション 拡大など	1 校内研修 自己評価 2 研究授業 協議まとめ 3 毎日 授業観察	学習意欲を高める指 導の実施 80% 研修等の機会 10 回  授業観察等を毎日全 学級	意欲を高める指導の 実施 91.3% 研修等の機会 10 回 主体的・対話的で深 い学びの授業の把握 2 回	・指導と評価に関する研修 ・職員室内の風土づくり ・小中連携による授業づく りの研修・研究 (10 回) ・主体的・対話的で深い学 びの実現が課題である。	◎
3 継続	学習カウ ンセリングの 推進	全教科	1 毎日 朝学習前 休み時間 放課後等 2 年 2 回 程度ほか	1 個別カウンセリング (朝、休み時 間、放課後) ・自己の課題の発見 ・勉強の仕方や学習習慣 2 三者面談や進路相談等	1 カウンセ リング 自己評価 2 面談等 実施回数	学習への努力 85%  生徒との個別相談・ 指導と三者面談等 の実施	学習への努力 84.6% 教員の学習カウ ンセリング 91.3% 全生徒との個別相 談・指導等の実施	・早朝及び放課後等の取組 を積極的に実施した。 ・保護者との連携の強化、 全生徒の意識向上が課題 である。	○

4 改善	補充的学習の充実	数学、英語	1 年28回 4×7回 毎日 2 長期休業中5～7日実施 3 年間を通じて	1 ESL ・指名制による個別の補充学習 ・朝や放課後の個別学習 2 サマースクール等 1 学年数学特訓及び全学年での補充教室 3 関係機関との連携強化 学習塾、チャレンジ学習など	1 実施状況 確認調査 2 実施状況 確認調査 3 情報交流 学力調査	ESL28回以上 基礎学力の定着指導 70%以上 家庭学習1時間以上 60%以上	ESL28回実施 基礎学力80% 家庭学習等58.2%	・早朝から10人程度の数学の基礎等を教える塾の開設 ・夏休み：第1・2学年の基礎・発展コース、第3学年の進学ゼミ的コースの開設 ・関係機関の活用が課題である。	○
5 継続	主体的な学習機会の提供	国語、社会、数学、理科、英語	1 定期的 3回程度の推進 2 検定等の推進 ・土曜日 ・年8回	1 教え合い教室 生徒が問題等を作成し教える学習の場 2 各種検定へのチャレンジ推進 ・4～5回の土曜スクール ・学校における検定試験の実施	1 教え合い 教室やコンテスト等 2 検定実施 受検者数	各教科の学習コンテンツ等で80% 英検・漢検・数検の受検者数50%	各教科の学習コンテンツ等平均約82% 英検・漢検・数検の受検者数約52% 主体的な学びの場の提供91.3%	・生徒会や学級委員会による対策プリントの取組 ・授業における教え合い活動の推進、検定受講の啓発 ・家庭学習の確立が課題である。	◎
6 改善	学習習慣の確立	全教科	1 毎日 2 月1回以上 3 年3回	1 「わかる・できる」授業の工夫と助言 2 各種たより、保護者会及び面談等の充実 3 地域における勉強会の実施	1 自己評価 2 自己評価 保護者情報 3 関係者評価	教員の自己評価 実施回数等 家庭学習1時間以上 60%以上	基礎学力定着の指導の実施78.3% 各種便り増加 家庭学習を1時間以上58.2%	・家庭への通信（昨年度の2倍程度）、ホームページの充実 ・生活習慣・学習習慣の確立が課題である。	○

<b>重点的な取組事項－2</b>		健全育成：思いやりを中心に豊かな心を養う。			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
思いやりなど人間的な豊かさを養い、自己肯定感を向上させる。		生徒による自己評価における自己肯定感75.0%以上	自己肯定感78.4% ※1年71.7%、2年78.1%、3年85.4%	学年進行と共に自己肯定感が向上し、指導の成果がみられる。	◎
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
道徳教育の充実	よりよく生きる人間性として学校生活に満足80%以上	「考える道徳・議論する道徳」の実施 人権教育の推進	学校生活満足度が89.7% 第1学年全員で人権作文の取組（最優秀賞受賞、学校感謝状受賞）	道徳授業地区公開講座での生徒の考え検討する授業の実施と保護者・地域との意見交換会の成功 道徳科の指導力のさらなる向上が課題である。	◎

学校行事等における生徒の主体的な運営	生徒自己評価で行事等の頑張り 90%以上	行事等の役割や立場の明確化と主体的な活動の推進	行事等を頑張れたと回答 95.9% 生徒の呼びかけ活動等の増加	行事運営を通して苦勞して達成させる楽しさや喜びを感じている。 自主・自律や主体性の伸長が課題である。	◎
小学校との交流や社会貢献活動の推進	生徒自己評価で人のためになる活動 80%以上	学習や部活動等において小学生に教える体験やボランティア活動の推進	人のためになる活動を実施 83.7% 地域清掃など各種ボランティア善行表彰	伝統として活動の引継ぐことと、全生徒への体験の充実・発展が課題である。	○

<b>重点的な取組事項－3</b>		体力向上：自らの生活を豊かにする活力ある生徒を育成する。			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
体力を高め、自らの生活を豊かにする活力ある生徒の育成		生徒自己評価における生活満足度 80%以上、スポーツ関心度 80%以上、体力の高まり感 80%以上	生活満足度 89.7%、スポーツ関心度 85.1%、体力の高まり感 79.7%	全体としては高い数値を示している。さらに全生徒に広げていくことが課題である。	○
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
体力向上	運動への関心、体力向上 80%以上	体力向上の研究、授業改善、関係機関との連携	運動・スポーツへの関心 85.1% 体力が高まった 79.7%	全体的には概ね満足できる数値である。 さらに全生徒に広げ高めていくことが課題である。	○
部活動への積極的参加	部活動への積極的な参加率 90%以上	部活動の教育的な意義の明示や賞賛等による全生徒による部活動の推進	部活動等での頑張り 83.5% ※1年 81.6%、2年 80.4%、3年 88.5%	学年進行と共に向上していく傾向があるが、部活動への関心が低下している。 今後、部活動の在り方を検討していくことが課題である。	△
小中一貫教育の視点にたった教育活動の推進	体系化した指導等の教員自己評価 80%以上	授業改善を中心とした年間7回以上の合同研究等の実施	年間 10 回の合同研究等の実施 小中交流の実施と社会貢献 87.0%	概ね満足であるが、さらなる指導力の向上が課題である。	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項－1 学力向上

区学力調査では、生徒の意欲を高める指導や基礎学力の定着を意識した指導により、学校全体の通過率が64.0%（昨年55.6%）となり、昨年より8.4ポイント向上した。本校の課題である基礎学力の定着と家庭等における学習習慣の確立を解決するために、今後とも一人一人がねらいを明確にして意欲をもち学習に取り組む授業づくりや補習等の工夫や充実、家庭との連携等による学習習慣の確立を図っていく。

#### 重点的な取組事項－2 健全育成

生徒の自己評価から、挨拶がしっかりできた生徒、学校行事や部活動に頑張れた生徒が90%を超えるなど、自己の生活や取組状況について満足している傾向にあり、自己肯定感は全学年70%を超えた（昨年度は第1・2年が60%代）。次年度は、道徳科を中心とした思いやりの心の涵養などを一層充実させるとともに、暴力やいじめのないよりよい社会づくりについて考え、実践していく生徒を育成していく。

#### 重点的な取組事項－3 体力の向上

平成31年3月に東京都教育委員会体力向上優秀校を受賞したことを踏まえ、生徒や保護者に体力の重要性を啓発できた。合計点が全国平均を超えた。また、生活の豊かさ等をみる生徒の自己評価において、ほとんどの項目が80%以上であるなど、成果がみられた。次年度は、体力向上と豊かな生活を送る活力の育成を一層向上させるため、授業等の改善・充実や保護者との連携強化とともに、小中一貫教育の視点で取組を充実させていく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

生徒たちには無限の可能性があり、一人一人違った良さや個性があります。それを引き出し、自ら未来を切り拓いていく力を育成するのが義務教育の使命です。本校では、文武両道を合言葉とし、目指す生徒の姿を「磨く」「挑む」「思いやる」として、全教職員が一丸となって指導に当たっています。挨拶や礼儀・マナーがしっかりでき、活力がある本校生徒は、高等学校への推薦による合格率が高い状況です。また、文化・スポーツ関係の活動が盛んで、都大会は常連であり、関東大会や全国大会にあと一步というところまでできています。

これらは、保護者や地域の皆様との連携・協働による教育の成果と捉えています。また、開かれた学校づくり協議会や足立九中後援会の物心両面の支援のお陰であると考えています。生徒たちは、未来の世界の形成者です。そのことを踏まえ、様々な知識・技能を身に付け、自ら意志決定と行動選択をして、未来に輝くことができる生徒を共に育成してまいりましょう。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

本校の「文武両道」の経営方針や「磨く」「挑む」「思いやる」の行動指針について、保護者や地域の皆様に十分ご理解いただけるようになりました。

本年度は、基礎学力の定着について、朝の時間を活用した脳の活性化を図り、授業の充実につなげることで、分かる・できる授業づくり、学習習慣の確立などから基礎学力の向上に取り組み成果が見られました。また、学校行事や部活動において、活力ある生き方や主体的な態度を推進してまいりました。

今後も、これからの社会を主体的に生き抜く力として求められているグローバル人材の育成を目指し、物事に対する関心を深めること、わかる・できる楽しさを味わわせて学ぶ態度を養うことや、他者と協力して課題を解決していくことなどの体験を通して、教育基本法が示す生徒の主体的に学ぶ態度を養う教育の充実に努めてまいります。